



## 常任委員会の活動 社会厚生常任委員会

**平成25年11月6日に所管事務調査を行いました。**

### 環境センターの現状について

10月に環境センターの焼却能力が低下しました。原因は、湿度の高い焼却灰が排ガスの通る部分に付着し管が詰まったもので、機器の清掃、部品の補修工事で緊急対応し、平成26年2月に修繕工事を予定しているとのことでした。

廃棄物処理施設整備については、五泉市・阿賀野市・阿賀町の2市1町で広域処理の方向で、廃棄物処理施設内部検討委員会を立ち上げ検討を行い、9月30日に正副管理者に中間報告を提

### 特別養護老人ホーム整備について

高齢化、一人暮らし、老人世帯が増加している中で、入所待機者の一刻も早い解消を図るためには施設整備が必要との判断から、第6期計画を前倒しし、第5期介護保険事業計画（平成24～26年度）の内容を変更する。整備は平成26年度中とし、開設は平成27年度以降で、介護給

**平成25年11月11日～13日に先進地研修を行いました。**

### 滋賀県近江八幡市 福祉トータルサポートセンター基本構想について

近江八幡市では、今後増大する高齢者、また障がい者、保育所待機児童数も増加傾向、生活保護者の支援など総合的な福祉政策確立の必要性、対応窓口が分散している、どこに相談したら良いのか分からない、重層的な対応や各課の連携がないことから、「福祉トータルサポートセンター基本構想」を策定しました。この構想は、福祉・生活の総合相談窓口の整備から、市民共生の拠点施設整備までの広範囲なもので、第1期基本計画（平成22～23年度）は、総合的

### 富山県富山市 富山エコタウン事業

富山市では、「エコタウン産業団地」を設け、資源循環施設の拠点とし、リサイクル施設を集約。団地内には、エコタウン交流推進センターが設置され、環境学習と環境活動の拠点施設として、エコタウン産業団地の見学会や啓発事業を行っています。

### ○閉会中の継続調査事項（3月定例会まで）

特別養護老人ホーム整備計画について

出しました。今後は、一般廃棄物処理施設整備推進協議会（仮称）を設立し協議を行っていくとのこと。

委員からは、広域化の協議会が立ちあがるのは前進であるが、焼却施設としてごみ発電施設などはリスクも感じられる。単独で施設運営した場合のメリット、デメリットも含めて示してほしいなどの意見が出されました。

付費は第6期計画に反映させたい。介護保険料の変更は、現行計画期間中は考えていないとのことであり、委員からは、施設整備については機会あるごとに市民に説明しながら進めていくべきであるとの意見が出されました。

な相談対応と提供するサービスを調整する仕組みづくりの整備で、福祉総合相談課を設置しました。第2期基本計画（平成24～26年度）では、窓口集約の推進、総合相談窓口機能の改善、子育てを地域で支える拠点、高齢者・障がい者等の雇用推進、市民共生の拠点整備推進を図る計画とのこと。当市でも、同じような課題が山積している中で、「窓口ワンストップ化」に、大いに参考になる取り組みでした。

整備方針の具体化に着手しています。3R（リデュース・リユース・リサイクル）をどうするのか十分な検討の必要があり大変参考になりました。



廃食用油リサイクル施設を見学

## 常任委員会の活動 産業建設常任委員会

**平成25年11月8日に所管事務調査を行いました。**

### 「阿賀野市観光戦略プラン」の進捗状況について

阿賀野市観光振興基本計画（阿賀野市観光戦略プラン）は、平成20年度を策定初年度とし、平成25年度までの5年間で戦略プラン推進期間として策定されたものです。

委員会では、最終年度である現状について、「健康づくりと食のまち」の推進、「もてなしの心とコミュニケーション」の醸成、「体験交流による滞在型観光（ニューツーリズム）」の推進、「環境保全による観光美化運動」の強化、「人材の育成確保」の推進、「情報発信の体制と誘客活動」の強化、「広域観光化の取り組み」の推進の7項目の戦略プランについて説明を受けました。

各委員からは、戦略の柱の一つである滞在型観光（ニューツーリズム）の推進における各種団体等との連携協力、阿賀野市観光戦略プラン推進・評価委員会による更なる牽引、インターネットを活用した情報発信の重要性が高まっていることからその確性の確保と観光協会をはじめ他団体とのリンクによりその内容を充実すること、目的地までの案内看板等を見やすくする工夫と充実のための財源確保、自衛隊基地等開催イベントに集客力があることから大日原自衛隊演習場の活用検討、戦略プランが余りにも多岐にわたる内容のため民間と行政の役割分担の再考や内容の再検討、白鳥おじさん復活をはじめとした瓢湖を核とした人を呼び込む新しい施策、市外の業者も注目しているように身近にあるが見逃されてしまっている観光資源の発掘と戦略的活用、商店街の「どこでもトイレ」などおもてなし運動（協力店）の市民への周知、他自治体における地域振興・観光振興事例の研究、この戦略プラン5年間の取り組みにおける一定の評価などについて、質疑や意見が出されました。

また、就任間もない片桐観光政策監にも質問がなされ、政策監からは現プランは非常に細分化され過ぎていてはと感じている。瓢湖に関して阿賀野市の代表的観光資源と謳っているものの戦略の中には出てこない。お客様を呼ぶとの観点から、一市民としても瓢湖という資源の原点に立ち返って考え再生できればと思うし、さしあたっては新潟交通の旅「くれよん」にモニターツアーを掲載、11月に2回、更に今冬2回企画し、新潟市内をターゲットに予定している。ちなみに、11月17日はキャンセル待ちが出ている状況にあるとの報告もされました。

今後の対応として、具体的戦略プラン策定にあたっては、数値目標の設定も検討すべきであり、更には昨年からの「産業フェア」や今年初めて開催された「昭和の乗り物大集合IN阿賀野」等、民間主導の実行委員会形式でのイベントも増加傾向にあり、民と官が有機的に連携し行動する協働での戦略にも力点を置く必要があると思われる。また、国も観光立国を掲げており、県も観光キャンペーンを予定していることから、国・県の観光施策動向を注視し、情報収集や連携協力を図ると共に、市及び関係団体協力のもと、より実効性の高い観光戦略プラン策定に向け努力するよう要望します。



阿賀野市観光戦略プラン

### ○閉会中の継続調査事項（3月定例会まで）

米の需給調整（減反政策）と阿賀野市の対応について